

『人間椅子』

- エログロが魅せる乱歩流
  - 乱歩の真骨頂「エログロナンセンス」
  - 
    主人公「私」
    - 椅子の中に潜む
    - 座る人々の体温や動きを感じ取る
    - ⇒ 不気味でありながら官能的
- 二重構造が生む臨場感
  - 巧みな視点操作
    - 佳子が受け取った手紙の形式
    - 差出人の「私」の視点から展開
  - 物語の最後
    - 真相が明かされる
    - 
      読者は再び視点の転換を体験
- 虚実が入り混じる物語
  - 虚実を巧みに混ぜ合わせる演出
    - 
      二通目の手紙
      - 一通目が創作であることを明かす
      - ⇒ 虚実の境界が揺らぐ
  - 読者に安心感を与えつつ、恐怖も残す